

ムサシトミヨ

くまがや きせき
～世界で熊谷市だけに生き残った奇跡の魚～

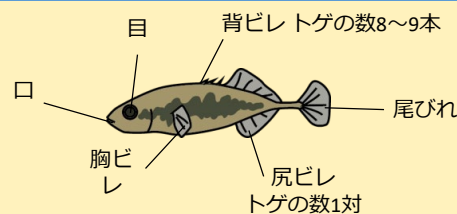
ちい き
地域が一体となってムサシトミヨの保護を行っています。



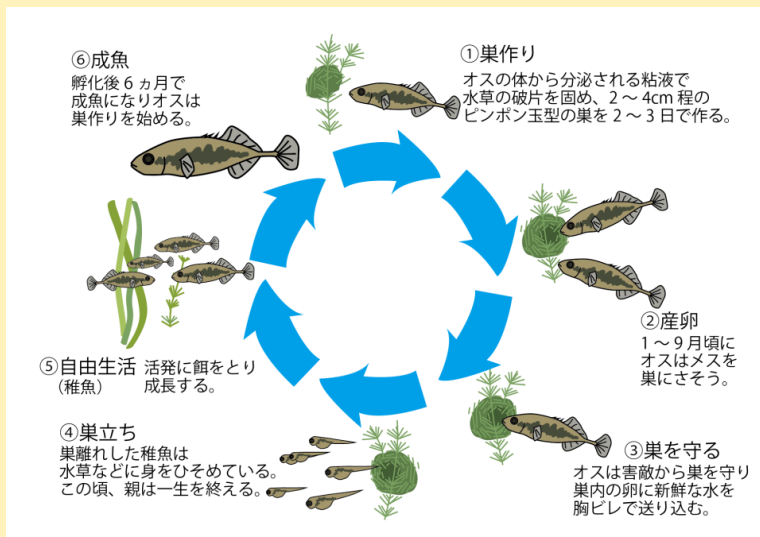
ムサシトミヨ

奇跡の魚 “ムサシトミヨ”

ムサシトミヨは、生息地の埋め立てや湧水の枯渇、生活排水の河川への流入などの要因により減少し、現在では世界で唯一熊谷市の元荒川でのみで生息が確認されている大変貴重な魚です。



名前(学名)	ムサシトミヨ (<i>Pungitius</i> sp.)
目 科 属 名	トゲウオ目 トゲウオ科 トミヨ属
体 長	3.5～6.0cm
生 息 地	埼玉県熊谷市 (元荒川の源流部)
適 温	水温10℃～18℃
生 息 環 境	きれいで冷たい湧水があり、ミクリやエビモ等の隠れ家となる水草がしげる流れの緩やかな川
特 長	背ビレ・腹ビレ・尻ビレにトゲを持ち、敵から身を守るときなどにトゲを出します。ムサシトミヨをはじめトゲウオの仲間は、オスが小鳥のような巣をつくり、子育てをする珍しい魚です。
寿 命	1年 (産卵しない場合は2～3年)
重 要 種 指 定 状 況	環境省RDB：絶滅危惧IA類 (CR) 埼玉県RDB：絶滅危惧IA類 (CR)



▶ 奇跡の魚“ムサシトミヨ”を守ろう！ “ムサシトミヨ保全推進協議会”と“埼玉県指定天然記念物”

◆ムサシトミヨの保全活動 ～ムサシトミヨ保全推進協議会～

熊谷市では、河川の環境整備や保護のPR等の他に、熊谷市立佐谷田小学校・久下小学校・熊谷東中学校で増殖活動が実施されています。約30年にわたる活動により、これまでに1万5千尾のムサシトミヨを増殖しています。また、元荒川周辺の人たちが集まってつくられた「熊谷市ムサシトミヨをまもる会」は定期的に川の草刈りや清掃、パトロール、保護のPRを実施しています。

◆埼玉県指定天然記念物 “元荒川ムサシトミヨ生息地”

元荒川は、1629（寛永6）年の荒川の西遷によって、荒川が熊谷市久下付近で締め切られるまでは荒川の本川でした。昔は湧水が豊富に出ている清流でしたが、湧水が枯れて、1963（昭和38）年以降は、くみ上げられた地下水が放流されてきました。

現在では、元荒川の源流部（ムサシトミヨ保護センター内）から下流へ約400mの区間が「元荒川ムサシトミヨ生息地」として埼玉県の天然記念物に指定され、保護が進められています。この区域では、周辺家庭からの生活排水が流入しないよう配慮されています。平成の名水百選にも選定されるほど水もきれいで、川岸にはヨシ群落、水域にはミクリやコカナダモ等が揺らぐ流れの緩やかな小規模河川となっています。

運が良ければ自然の
ムサシトミヨに出会えるかも！



元荒川 ムサシトミヨ生息地

▶ 奇跡の魚“ムサシトミヨ”に会おう！ ～熊谷市ムサシトミヨ保護センターの役割～

◆熊谷市ムサシトミヨ保護センター

熊谷市ムサシトミヨ保護センターは、2004（平成16）年10月に旧埼玉県水産研究所熊谷試験地が熊谷市に移譲され誕生し、現在はさいたま水族館の職員によってムサシトミヨの飼育・繁殖・保護が行われています。

保護センター内の一部は熊谷市ムサシトミヨをまもる会の活動拠点として利用されており、施設内にはムサシトミヨが展示されています。大型の水槽の中を泳ぐムサシトミヨを観察することができるので是非とも行ってください。

また、元荒川源流部（保護センターの下流約400m程度）にはムサシトミヨの生息地があるので、運が良ければ自然環境下に生息するムサシトミヨに出会えるかもしれません。

◆出会いのポイント

保護センターは常時開放の施設ではありませんが、夏休みや県民の日にはムサシトミヨや自然保護に関する観察学習会やイベントを開催しています。また、毎月第1・第3日曜日の9時から10時には、ムサシトミヨをまもる会によるムサシトミヨの解説が行われています。



展示されているムサシトミヨ



熊谷市ムサシトミヨ保護センター

アクセス

ムサシトミヨ保護センター（元荒川ムサシトミヨ生息地）

交通：高崎線「熊谷駅」下車、徒歩約15分

秩父鉄道秩父本線「上熊谷駅」下車、
徒歩約26分

住所：熊谷市久下2148-1



ムサシトミヨ保護センター
（元荒川ムサシトミヨ生息地）